

地 域 交 通 に お け る  
「担い手」「移動の足」不足  
へ の 対 応 方 策 の  
カ タ ロ グ

令和 6 年 8 月

国 土 交 通 省



# 4 公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）

## ① 公共ライドシェア（道路運送法78条2号）の概要

バス事業やタクシー事業によって輸送手段を確保することが困難な場合、市町村やNPO法人などが、自家用車を活用して提供する、有償の旅客運送。

省令において「交通空白地有償運送」及び「福祉有償運送」を規定。



### 種類

※数値はR5.3.31時点

（交通空白地） 698団体、4428車両  
（福祉） 2428団体、14044車両

### 利用者

（交通空白地） 地域住民・観光客  
（福祉） 介護を必要とする者

### 提供体制

（運送主体） 市町村、NPO法人等  
（使用車両） 自家用車（白ナンバー）  
（ドライバー） 第1種運転免許の保有、大臣認定講習の受講等

### 運送の対価

法律により、「**実費の範囲内**」の収受が認められている。

### 登録要件

- ① **安全体制を確保すること。**  
（運行管理・整備管理の責任者の選任等）
- ② **地域の関係者（※）において協議が調うこと。**  
（※）地域住民、地方公共団体、NPO、バス・タクシー事業者、事業者団体、運転者団体等

## ② 公共ライドシェア（道路運送法78条2号）の運用改善（1）

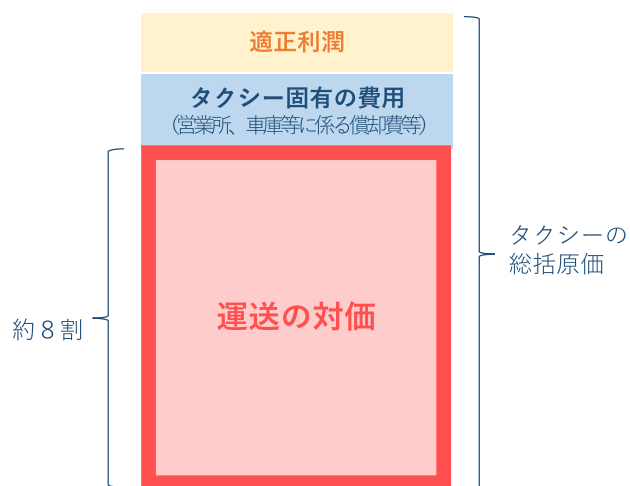
### 「時間帯による空白」の概念の取込み

「交通空白地」の目安を数値で示すとともに夜間など「時間帯による空白」の概念を通達上明記



### 「対価」の目安の見直し

対価の目安を地域のタクシー運賃の「約8割」とすることを通達上明記



### 株式会社が参画できることの明確化

交通空白地有償運送の実施地域において、自治体等実施主体からの受託により、株式会社の参画が可能であることを通達上明記



### 観光地における宿泊施設の車両の共同使用の促進

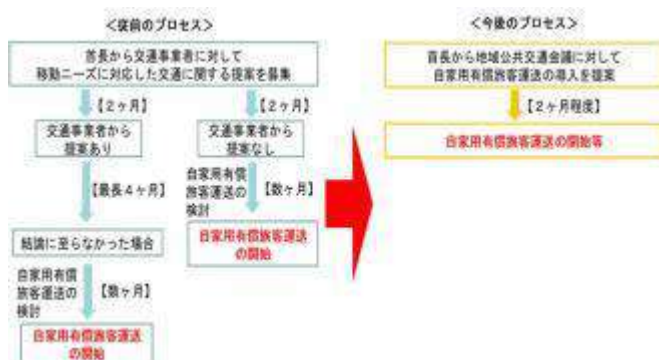
宿泊施設が所有している車両について、使用されていない時間帯に自治体等自家用有償旅客運送の実施主体に提供し、ホテル間の運送や地域住民等の運送に活用することが可能であることを通達上明記



## ② 公共ライドシェア（道路運送法78条2号）の運用改善（2）

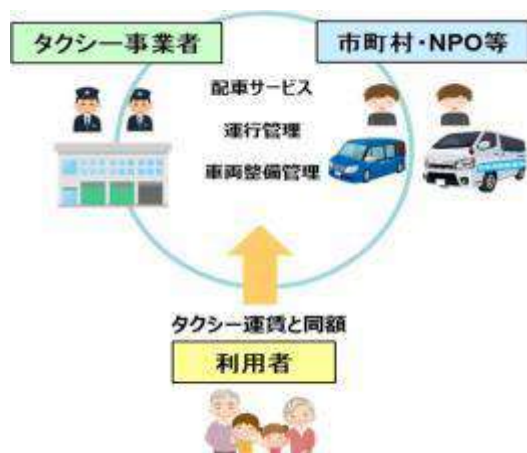
### 地域公共交通会議の運営手法の見直し

地域公共交通会議で2か月程度協議してもなお結論に至らない場合には、協議内容を踏まえ首長の責任により判断できることを通達上明記



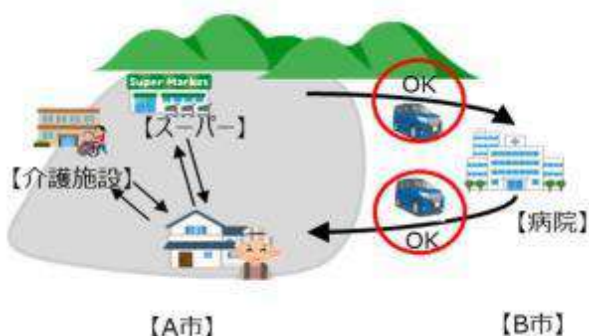
### タクシーとの共同運営の仕組みの構築

タクシーサービスの補完として自家用有償旅客運送を活用するため、タクシー事業者と市町村・NPO等との共同運営（タクシーサービスと自家用有償旅客運送サービスとの一体的な提供）が可能であることを通達上明記



### 運送区域の設定の柔軟化

運送区域外の目的地への往復を可能とする必要が高いことから、発地又は着地のいずれかが運送区域内にあればよいことを通達上明記



### ダイナミックプライシングの導入

一定のダイナミックプライシングを導入するため、以下の事項を通達上明記

- ① 通常収受することとなっている対価に対して、5割増を上限、5割引を下限として、柔軟に対価の額を設定することが可能。
- ② 手法としては、
  - ・対価の額をリアルタイムに変動させる
  - ・対価の額が変動する時間帯や要件をあらかじめ決定するのいずれも可能。
- ③ 一定期間に収受した対価の総額は、「実費」の総額の範囲内であればならないことから、これを3ヶ月ごとに確認。

## ② 改善後の公共ライドシェア（道路運送法78条2号）の導入事例

令和5年末に実施した自家用有償旅客運送制度の運用改善を踏まえて、石川県加賀市、小松市をはじめとする各地域の市町村において、タクシーを補完する観点から実装が進んでいる。

### 事例 01

#### 加賀市

2月26日より実装開始

##### 運送主体



一般社団法人加賀市観光交流機構

##### 導入経緯



- ・市民や観光客の移動手段が十分に確保されていない状況
- ・バス・タクシー事業者のドライバー不足が深刻、増車も見込めない
- ・令和6年3月16日の北陸新幹線の金沢以西開業により、多くの観光客が来訪することが想定

##### 運賃 ¥

タクシー運賃の8割

##### その他



- ・加賀第一交通が運行管理・車両整備を担当
- ・配車手配はアプリ（Uber）のみ
- ・ドライバーは一般社団法人加賀市観光交流機構と契約



### 事例 02

#### 小松市

2月29日より実装開始

##### 運送主体



小松市

##### 導入経緯



日常的に移動に不便を感じている住民や観光客、新しく開通する北陸新幹線で小松市を訪れた方々の移動の利便性向上に加え、能登半島地震で被災された二次避難者の方々の移動を確保するため導入

##### 運賃 ¥

タクシー運賃の8割

##### その他



- ・小松タクシーが運行管理・車両整備を担当
- ・配車手配はアプリ（いれトク！）及び電話

